

日本人の心を今、呼び覚まそう

蘇生日本

新春号

『蘇れ 日本人の会』

〒244-0805 神奈川県
横浜市戸塚区川上町574
電話 045-824-5965
FAX 045-824-5973

発行人 藤原 大士
編集人 鈴木 純市

「新春の集い！」記念講演

蘇生日本『心の苗木』運動と三要素 先人の知恵、大和の魂、胸襟の友を



藤原 大士 会長

かつては「政治は三流であつても経済は一流である」という時代もありましたが、今は低迷状態で、日本人の気持ちも失速した感じですが。

「自分がどつすればいいのか」と迷っているのは、政治なら政治、外交なら外交、経済なら経済、教育なら教育という部分であれば、それぞれ専門の方が解決すればよいのでしようが、今は環境問題を含めあらゆる部門において問題を生じている為に、どの部分から手を付けていいのか判らない。実際にある分野だけをしてみても、どつにもならないからです。

「このままの日本でいいのか。日本はどつなるのか」と思つておられる方は大勢いらつしやいます。しかしながら、「自分一人ぐらいがどつ頑張つても世の中は変わらない」と諦めている人、また「何をどつしたらよいか」と行き詰まり、立ち止まつている方も大変多いように思います。

現在は、道徳とか人の誇りを忘れ、打算と競争に明け暮れ、心も魂もすり減らし、青少年の犯罪が凶悪化・低年齢化し、狂牛病、鳥のインフルエンザ這出で来て、明るい話が出て来ない。

人が大業を為すには、三つの大きな要素が必要ですが、『蘇り』は出来る』のです。

第一点は、先人の知恵を借りること。日本には、それぞれの時代を担つた素晴らしい先人が大勢います。そついつた人の知恵を借りることです。

第二は、伝統的な日本人の素晴らしい魂を蘇らせること。

第三は、胸襟を開いて話し合える協力者を求めること。この三本の柱で、素晴らしい日本人、素晴らしい国に育てたいのです。

私は、山に一本一本の苗木を植えるように、皆さんの心の中に、心の苗木を植えて、皆さんの心の苗木と共に私も成長する『心の苗木運動』、『魂の苗木運動』を進めたいのです。

第一の先人の知恵ですが、今は覚えるだけの勉強方法をとつているために、それを生かす事が出来ない。歴史であれば、いつ、どこで、誰が何をしたら覚えるだけ。大事なのは、その人がどう思つてどういうことをし、後世にどういうことを託したのか、それを各人が受け取つて、自分の人生にどう生かしていくかです。今は考える勉強方法とか、人格を養成することを抜きにして、単に知識だけを詰め込む。ここが問題なのです。

現在は、素晴らしい方が隠されて、南京事件や慰安婦問題等、「何だ、おじいちゃんの時には悪いことをしたのか」と思わせるような教科書です。

やはり「日本人に生まれてよかった。日本人は精神的にも道徳的にも人格的にも誇りのある国民だから、自分達も頑張ろう」と、青少年にとつて希望のある教科書にして頂きたい。日本にはそれぞれの時代を担われた素晴らしい方が大勢いるが、ここでは二宮金次郎の話を取り上げます。

以前には学校へ入ると、薪を背負つて本を読んでいる二宮金次郎の銅像があつた。勤勉、親孝行、創意工夫等、将に日本人のお手本としての方です。何故この銅像が無くなつたのか、私には疑問です。

金次郎は箱を作つて砂を入れ、その上に「あ」を書いては消し、「い」と書いては消して勉強をし字を覚えた。またあんなどの油が手に入らない時、自分で土手に菜種を植えて、その種をとつて灯油と交換して勉強をした。

お父さんに「家を興せ」と言われて家を興し、大地主にまでなつた。しかし僅か十五、六歳の時に、「毎年酒匂川の氾濫がある。これを何とか喰ひ止めた」と、自分が子守をして得た

なけなしの小遣い全部で松の苗を買い、土手に植えた。今でもその松並木が残っています。小田原藩の家老から、財政建て直しを依頼されて成功すると、色々な藩からも建て直しを頼まれる。町村も入れると数万件も建て直しをされた。

お父さんに「百姓であつても武士にものを対等で言えるよくな人になれ」と言われた事も、各藩の財政建て直しを成し遂げることによって出来ました。



一宮尊徳（金次郎）像

日本人の伝統の魂

徳・慈悲・和の心

一番目の伝統的な日本人の魂の蘇りでは、今の日本人は日本人であることの誇りを忘れ、若者は無国籍人に近い状態です。本来、日本人は徳をもって政にあたる 慈悲を以って勞わりあう 和を以って尊しと為す、この三つが基本です。

徳を以て政にあたる

第十六代の仁徳天皇は難波の宮にあつて、ある日小高い丘の上に登つて、自分の村里を眺めた。夕日が沈む頃になつても、一向に里の方から煙が上がらない。夕餉の仕度でも出来ない程困窮しているのではないかと、三年間税と賦役を免じた。

三年経つて丘の上にあがつて見ると、煙があちこちから上がつていたが、「やつと楽になつたのであろう。このまま税を復活すると、まだまだ困窮するのではないかと」と、更に三年間延長したために、宮殿そのものの屋根根がはがれ、雨漏りがする状態で、天皇ご自身が布団を持つて雨を避けられたという。

こうした所から、上の方は下の方に對して慈愛を以つて接し、下の人は上の方に對して敬愛の念を以つて接するといふ『慈愛』と『敬愛』の素晴らしい伝統が生まれたのです。

慈悲を以て勞わり合ふ

東大寺を建て、国分寺や国分尼寺を全国に建てた第四十六代の聖武天皇の奥様・光明皇后様は、施薬院や悲田院を建てて、病人を治療し、孤児や年寄りに施しをされた。この時に体中に膿が出ていた人の膿を、自らの口で吸つて治したという有名な話が残っています。

現在の福祉政策の先鞭をつ

けられたお方です。現在の福祉は、言葉では「福祉、福祉」と言っているが、お金さえ渡せば良いという風潮なきにしもあらず。『福祉の根源は思いやりの心』です。これが基本でなければならぬ。

和を以て尊しとなす

聖徳太子が十七条憲法の中に規定しましたが、聖徳太子が初めてこの言葉を使つたわけではなく、日本には連綿と以前より使われていた。それも大いなる和でなければならぬといふのが、大和の国という元であり、既に大いなる和を以つて国を築こうといふ伝統があつた。日本語の元である大和言葉は大変美しく、暖かく素晴らしい言葉で、今も日本人の心の中心に脈々と流れている。

今『大和魂』などと言つと、それだけで「軍国主義の復活か」、「右翼か」と言われかねないが、これは第二次世界大戦中に軍部が大和魂を、「撃ちてしやまむ」、「一人になつても最後まで戦え」と教えたので、以降はそう思い込んでしまつたのです。本来の大和魂は、大いなる和を以つて国造りをするこ

とです。

協力者です。

本来、『友人は、生涯の宝である』。しかし現在の教育では、「自分が通れば友達が落ちる、友達が通れば自分が落ちる」と、受験戦争において敵対視をしている。そういう中で、本当に自分が腹を割つて自分の一生を託せるような友人が出来るでしょうか。本当に今の若者の中に、生涯を共にするだけの親友が何人いるでしょうか。むしろ奇めの対象になったり、暗い方向になつてはいないだろうか。

ここでは、西郷隆盛と勝海舟の話を取り上げたい。二人は以前よりお互いに知りあつた仲間だから、勝海舟は幕府側の意見として忌憚なく述べ、西郷隆盛は討伐軍として自分の考えを述べ、お互いに意見を出し合つて、「どつしたら解決するか」の結果が、江戸城の無血開城です。もしその時決裂すれば、江戸は火の海です。



「江戸開城談判」 結城素明・画

個人にとつても「友人は一生の宝」ですが、国家存亡の時には、胸襟を開いて話し合える協力者がいれば、国をも救つことが出来るのです。これからは人類を救い、地球をも救つ。だから胸襟を開いて集まる協力者が必要なのです。

この三つの要素を基軸にして『蘇れ 日本人の会』を進めて行きます。更に団結心をもつて行なえば、思つたより早く、しかも滑らかに蘇りは可能です。

この点は、裏返しをすると、GHQが、いわゆる神風特別攻撃隊のように、己を捨てる精神の上に、より強力な団結心を持たれては困るといふので、日本人の精神的基盤そのものを壊す占領政策をとつたのです。

日本人は、本来自分を犠牲にしても人様のために行なうことの出来る民族であり、また人様に對して差し上げることに喜びを感じる民族です。こうした優れた伝統と誇りある魂を忘れてはならない。今こそ、これらを蘇らせる時です。私が立ち上がったのも、今これを次の世代の方に伝えないと、日本人の心や魂そのものが継承されな

いと思つたからです。『人の為に』というのは、最小限においては親が子を思い

子が親を思つ『家族愛』、これが基本です。お互いに自分の家族のためを思いあつところから、知人・友人に広がり、郷土に広がった時『郷土愛』になり、会社においては『愛社精神』、更に広がつて『愛国心』が蘇えるのです。

人生僅か五十年から、今は八十年の時代です。三十年ほど寿命が延びましたが、私達は行なすべき事を人生五十年ではなしえないから、更に三十年の寿命を与えて下さつたのだと私は受け取つております。

その延びた分を、現代社会に對してどれだけの貢献が出来るか。時代の流れとして、先祖から子孫に託する縦の中心に自分がいると同時に、現代社会という横の中心に自分がいる。いわば私達一人一人は縦横の中心にいます。

お釈迦様が、「天上天下唯我独尊」と言われたのは、何もお釈迦様一人が偉く尊いというのではなく、人は皆それぞれの使命・天命を持つてこの世に生まれる、為すべき事のある尊い存在なのだと言われたのです。

何故明治維新がなつたか。西洋の列強がアジアの国々を植民地化し、そのまま日本に押し寄せてきた時には、各藩が思い思いのままにやつたのでは日

藤原会長 講演内容より

◇ 大事を成し遂げる三要素 ◇

- 一、先人の知恵を借りる
- 二、伝統的な日本人の魂の復活
 - ・徳を以って行う
 - ・慈悲を以って労わり合う
 - ・和を以って尊しと為す
- 三、胸襟を開いて話し合える協力者

本も植民地化されてしまつ。日本という一つの国に纏まつて対応しなければならぬといふのが一番大きな理由であつたはずで、従つて幕府が倒れたらそれでよしとするのではなく、むしろこれからの日本をどうするかが大事で、そこで富国強兵策で頑張つたのです。吉田松陰先生は「身はたとひ武蔵の野辺に 朽ちぬとも留め置かまし 大和魂」という辞世の句を詠んで刑場の露と消えたけれども、松下村塾の門下生からは、久坂玄瑞、高杉晋作、伊藤博文、品川弥二郎、山形有朋等大勢の英傑が出たのです。松陰先生は刑場の露と消えても、その志を受けて後の者が素晴らしい日本に発展させ、大いなる繁栄と成長の基を作

つたのです。

今の方は、自分の事だけを考へればよい。人の為などと思つていたのでは、馬鹿を見る。他人の事なんか構つておれない。自分さえよければ良いんだといふところが、もう既に百八十年の転換をしているのです。

やはり人様のためにという日本人本来の形に戻つて頂きたい。昔から『子孫に美田を残さず』と言います。財は一代ですが、名は末代までも残るので、行なつた仕事も残ります。

暖かい言葉は家族の絆「心の苗木」を育てよう

最後の締め括りとして、『よい言葉を使う』ようにしていただきたい。「おはようございます。」「ありがとうございます。」「頂きます。」「ご馳走様でした。」「極当り前の言葉ですが、そこに思いを込めて言つて頂きたい。

言葉の時代から、日本の国は言葉には魂があつて、「言葉の幸ふ国」と言われ、いい言葉を使うと幸せを呼ぶ。又「言葉の助くる国」とも言い、いい言葉を使うと、人生そのものを助けてくれる。こういう伝統からも、美しい言葉、明るい言葉、暖かい言葉を使つていただきたい。それから水の玉(下の写真)

を見て下さい。愛とか感謝とか素晴らしい言葉の時には、素晴らしい結晶になり、「馬鹿だ」とか「駄目だ」とか「死んでしまえ」等と良くない言葉を使つた時には、結晶が壊れています。

私達の身体を流れている血液はもちろん、骨も筋肉も、体の七十%は水分です。その水分が暖かく美しく素晴らしい言葉で、きれいな結晶になつて頭、先から足の先まで巡るのか、「バカヤロウ」、「駄目だ」と言つて、壊れた結晶として体内を巡るのか、大きな差です。

普段から家庭において素晴らしい言葉掛けをし、常に心安らかな安定した生活をし、気持ちの上においても幸福感を持つて過ごし、勉強の効率化と素晴らしい閃きも出る。言葉は正しく、美しく、そして相手のためを思つて使つて下さい。

苛めにあつただけで、何故若く尊い命を自殺に追い込んでいくのか。苛めの言葉は、「お前なんか嫌いだ、お前なんか死んでしまえ」ですから、常に破壊された結晶が全身を流れるのです。

だから段々と追い込まれて、鬱になつたり人生そのものを傷んで、何時の間にか死においてやられるのです。家族が暖かい

言葉で接してあげて欲しい。願わくば学校の先生も、普段から暖かい言葉を使つて頂きたい。

毎月の首都圏月例講演会において、こうした問題の一つずつを取り上げ、『千里の道も一歩から』、毎回の講演会で解決策を出しながら、心の苗木を育てていきたいと思つています。

皆さんお一人お一人が心の苗木を育てて頂けば、ご家族の中に広がり、隣人・友人と広がり、会社においても、地域としての郷土においても、更に日本の国全体にこの心の緑が広がつていつた時、本当の意味での平和で健康で幸せな人生を送ることが出来る、また国家が育つて行くのです。(了)

愛・感謝

	馬鹿野郎	
	ムカツク殺す	
	YOU FOOL	

「水は答えを知っている」江本勝著 (サンマーク出版社刊)より

『蘇れ 日本人の会』
 「新春の集い！」
 熱気溢れる一五〇名の受講者

一月十四日(水)、杉並区産業商工会館(三階講堂)において『蘇れ 日本人の会』『新春の集い!』を杉並区、杉並区教育委員会の後援のもとに午後六時より開催致しました。当日は夕刻より強い寒風という気象条件にもかかわらず近隣の方をはじめ遠路、千葉、埼玉、神奈川県等から一五〇余名という多くの方々が来場、満席という熱気あふるる講演会となり、盛況裡に終了することができました。

「来場の皆様をはじめ開催事務局スタッフ、ご支援賜りました関係者の皆様、ご祝辞をいただきました来賓の皆様、ご後援を賜りました杉並区・杉並区教育委員会の皆様に本紙上をお借り致しますして、心より厚く御礼申し上げますと共に、今後の更なるご支援をお願い申し上げます。

「新春の集い」には五名の「来賓の方々をお迎え致しまして、力強いご祝辞を賜りました。その総てをお伝え致したいのですが、紙面の都合により要旨のみをご挨拶順に掲載させて頂きます。

木川 統一郎様 弁護士
 ・民事訴訟法の第一人者



藤原会長は私の教え子でありまして、私とは意気投合いたしております。私は、戦後五十年の間、日本人は集団迷走をしているのではないかという基本的認識を持っております。日本人を批判し、悪く言い日本の国を悪い国家として批判するような言説が長い間、日本を支配してきております。新聞・雑誌・ラジオ・テレビ、諸々の教育者・文化人、あらゆる所で、これは少し違うのではないかと

と思えます。日本の歴史を良い面も悪い面も正しく認識しなければならぬ。この頃のテレビを見てみると若い出演者が並んでくだらんことを言っておる。これを治したい。

この『蘇れの会』は、平和を愛する日本人の心、徳を養う日本人、神や仏の前で心を静め敬虔な気持ちで手を合わせる、そういう日本人に還ろうではないか。私はこの会は過去の良いところを蘇らせようとする会と認識しております。



「新春の集い！」会場風景

根本郁芳 様
 杉並区商工会議所会長



先日、成人式の方にお招き頂きました。会場が本当に騒がしいのですね。

でもじっと見ていますと、一生懸命聞いている方と、二階の方でわいわい騒いでいる人が居て、二割位が騒いでいたと思います。中には大きな声でやじるのもいて、本当に区長も話し辛かったと思います。

まだ成人式に来れない人、まだ成人していない人が集まっているのではないかと思っただ次第でございます。

この元は何かというと教育だと思っております。教育をしつかりやるかやらないか。成人式でも皆が皆悪いわけではない。やはり基本的なものはそれぞれの教育の問題に到達するのではないかと思っっている次第でございます。

区長も相当力を入れて教育問題にも取り組んでおられま

すけれども、まずは我々身の周りからやっていくことが大事ではないでしょうか。

我々一般の人達が、家庭でも職場でも、通行していても、一人一人の心の使い方が一番大事なのではないかなと思えます。「蘇れ日本人」という意味もそこにあるのではないかと思います。この会が益々そういう人々の輪をひろげて発展することを願っております。

山田 宏 様
 杉並区 区長



今日は『蘇れ 日本人の会』新春の集いということでした。今の日本に元気がない、つまらない出来事や事故が多く、どこかゆるんでしまっていると思えます。そういう時に藤原会長が独り立ち上がり、私財を投じてこの会をスタートさせたということで、心から私は応援しております。

区長として日頃思っているのは今の教育の在り方です。

その中で私は江戸時代の教育に注目しております。知識より、人間をつくる全人教育・人格の教育に終始し、立派な人を世に出そうとしていた。儒教・神学など色々なものに根付いた良い教科書が一杯あった。やはり国民全体で知恵を出し合って良い人間の基盤をつくる教科書を作って行く運動が必要と思っています。

また、文部大臣が小学校から英語教育をなどと言っていますが、私は国語、日本の歴史、人間の基盤教育をこそ先行すべきだと思えます。

語学は大切でして、その国の言葉を通じて文化や心というものが伝わります。次は歴史ですが、今の日本の教科書は総じて支配者と民衆の対立という唯物史観的な構図にみえる。果たしてそうかと思えます。

テロ事件、拉致問題などから日本人が段々目を覚ましつつあり、今年は多分、日本が本当の意味で国家としての自立に向かつて一歩一歩踏み出して行く大事な年になろうかと思えます。

そういう面で冷静に静かに、にこやかに自信をもって我々の動きを少しずつ次の時代に繋げていくということが出来ればそれはとてもいいことだと思っております。新春を飾る

御礼

「新春の集い！」開催にあたりまして
石原伸晃様（国土交通大臣）
高村正彦様（衆議院議員・元外務大臣）
鈴木盛夫様（民主党衆議院選挙区東京八区総支部支部長）
より祝電を頂きました。有難うございました。

立派な集いとなられました事を心からお祝い申し上げます。

原田 和明様
UFJ総研 シニアフェロー



私はこの古き良き伝統をもった国として平成維新を推進して行かれる藤原先生のおかげに全面的に賛成している次第でございます。

私はエコノミスト（経済学者）ですので、数字の面で如何に日本人が自信を喪失しているかを申し上げたいと思えます。金融機関の研究機関が二年毎にしている調査結果です。

まず、「日本の歴史・伝統・愛国心について自信を持っていますか」に平成四年「六五%」、平成十四年「五三%」に、「国民の勤勉さや能力」は平成四年「五七%」、平成十四年「三七%」。

「教育に誇りをもっているか」平成四年「四六%」、平成十四年「二三%」。「経済繁栄について」平成四年「四五%」、平成十四年「十五%」にそれぞれ減少している。これが日本の現実の姿です。十年間に「日本人が誇りを喪失してしまった」のです。それは一九九〇年以降、日本の社会風土、良き伝統が大きく揺らいでしまったのです。私はこの会が世界の流れを十分認識して、その中において日本の良き伝統を取捨選択していくことも必要と思えます。どうやら日本の景気も明るさが出て参りました。今後この会が新しい日本の誕生のために国民運動に展開されますことを心から期待致します。

塚本 三郎様
元国会議員・民社党委員長



昨年末、台湾に参りまして親交の深い李登輝さんとお話をしました。彼は「台湾は道義国家。道徳の国家として立っていきたい。道徳に勝る力はない。武力では道徳を抑えることは出来ない」として、「その道徳を育てるのは教育です」と言い切りました。戦後五十年、日本はアメリカを凌ぐ経済大国になる事が出来ました。しかしその奥には、日本人の魂というものを担保に置いて平和を勝ち取り、道徳心を担保に置いて、経済大国になったと思うのです。

こんな平和が本当の平和でしょうか。昭和天皇様がお亡くなりになるまで口ずさんでおられたのが五カ条のご誓文だと伝えられております。そして明治憲法をお作りになり、教育勅語を作り、明治の時代が発したのです。

（中間省略させて戴きました）
昭和天皇は昭和十六年、太平洋戦争をする時は反対だったのです。その事をマッカーサーは知っているから、「私は戦争犯罪人じゃないから、助けてくれ」と言いに来たと思つた。「ああこの男も又、命が惜しいから助けてくれ」と言いに来たんだな」と。

その時、裕仁天皇は何と仰つたか。「この戦争の全ては私の責任でございます。私を裁判に

かけて自由に裁いて下さい」と言つたから吃驚した。そして一言だけ「閣下、お願いがあるのです。今、日本人は食べ物に困つておるのです。是非一時、日本人に対して食料を貸してやって欲しい」。その担保に言つて、皇室財産を侍従長に持たせてもらいました。マッカーサーは回顧録で書いています。「ここに神がいる、ここに世界一の紳士がいる。私は日本の占領統治の全てをこの方に賭けよう」と決意した」。

今は一言も報道させていないけれども、私達の先人には素晴らしい人たちが大勢おられます。政治の世界に三十年携わつた私の立場から皆様にこつとした事を訴えまして、その魂は藤原会長の決意でもあろうかと申し上げ激励のご挨拶と致します。

「新春の集い！」のご来賓の皆様のご有意義なご祝辞は紙面の都合にて全文の掲載が出来ず要旨のみ掲載させて頂きました。
特に塚本先生のお話は日清・日露・太平洋戦争・マッカーサー・東京裁判の各秘話と続きますが、「希望の方は収録ビデオ」輝く日本にするために！」をお求め下さい。
詳しくは事務局にお問い合わせ下さい。

開催毎に内容充実！！ 躍進する首都圏月例講演会

首都圏・月例講演会は、昨年五月よりスタートしました。過去七回の講演では、今の世の中の狂いは何が原因なのか、それをどうしたらいいのか、必ず解決策を出す講演会として進めてまいりました。

今年も、教育シリーズに取り組みます。(月毎のテーマ・日時・会場は左の表をご覧ください。会場地図は最終頁です)

蘇れ日本人の会が目指すものは、生涯教育です。学校教育はもちろん、政治家の教育、企業教育、家庭教育、今ほど見る目を養うことが大切な時代はないのではないのでしょうか。毎回の講演を聞かれた方の中で、さらに活躍していただく方のためにこれからは「塾」も計画中です。まずは講演会にご参加ください。

第六回 首都圏・月例講演会場



日程	演題(予定)	会場
3月13日	人の最も大切な基礎を作るものは何か	アルカディア市ヶ谷(私学会館)
4月10日	人生に役立つ学びとは	家の光会館
5月8日	徳育の大切さ、今何が欠けているのか	(飯田橋レインホールD会議室)
6月13日	人生はもっと楽しく有意義なものだ	
7月10日	能力の伸ばし方・活かし方	家の光会館 セミナールーム

それぞれ午後1時30分より講演が始まります。開場は1時です。8月以降は会場調整中です。

皆さんの声

先生のお話は、本当は誰でも聞きたいと思っただけのお話です。でもなかなかこうしたお話に出会えることが少ないんですよ。貴重な講演会だと思えます。私は群馬から来ていますが、ぜひ藤原先生のお話を群馬でもしていただきたいです。

支部を作りたいと思います。自分は、つまらないと思った講演だったから、絶対に最後までいませぬ。でも藤原先生のお話は、最後まで席を立つどころか、終わった後でももっと聞きたいと思いました。今日の話をもっと二十代の若者に聞かせたい。

第七回・首都圏講演会に出席

アサヒビール
特別顧問

中條高德 先生

「ご多忙のなか講演会にご出席下さいました中條先生の心暖まるお話をご紹介いたします。(ある母の話の抜粋)」



中條 高德 先生

人間育成の要 母の愛は永遠に・・・

私は母のことを「日本の母」と呼んでおります。その母が今年(平成十五年)九十歳で亡くなりました。母は十六歳で佐渡に嫁ぎました。若き日の母は現代版「おしん」かも知れないと思っております。母は子供のオシメを布の切れ

端で縫い、汚れたオシメは雪の降る日でも凍りつく川に運び洗い、母の手はあかぎれで割れ、血が出るとその割れ口にご飯粒を詰めて耐えたと聞きました。そんな手になっても、赤ん坊には少しでも温かいオシメをいつも炬燵のなかで温めておいてくれました。

また食事しながらおっぱいを飲ませている時などに赤ん坊が下痢のウンチをすると食事を中座してオシメを外し、下痢でたれたお尻を、自分の舌で嘗めとっては吐き出し、綺麗になると炬燵で温めたオシメと取り替えるのでした。

このことは今日の軟らかい

紙などは無く、また軟らかい布も無くオシメも布を縫い合わせているので、それで汚れたお尻を拭けば赤ん坊のお尻は、さらに赤く膨れ上がってしまします。

母は赤ん坊が痛かろうと案じ、自分の舌で下痢のウンチを嘗めてふき取ってくれていたのです。その口で再び自分の食事をとるといふことが度々あったのです。こうした母のエピソードは数えればきりがありません・・・

忘れられないのは私が南米行きを決意したとき母は「いいが、よく聞け。自分の子に、この子可愛い、この子憎いの分け隔てはない。日本にいれば皆が力を合わせる事ができる」と涙を流され、南米行きを断念したことです。

晩年近く、母は私に「もう畑や田に行けん。仕事ができなければ人の為にはならん。例えわが子でも迷惑はかけたくない」といい、その後は自ら食を細めて、水のみを飲み、大地に眠るがごとく静かにその一生を終えました。

中條先生にご披露頂いたお話に皆さん思わず涙し、会場内に感動が広がりました。その情感の溢れるお話の全てをご紹介できないことが残念です。

活動通信

このページでは当会の活動・会員の皆様から寄せられた地域の活動などを紹介します。皆様からのお便り、日本人の心を呼び覚ます体験談や短歌・俳句・川柳など文芸欄も兼ねた会員交流の場にしたいと思っております。自由意見・投稿をお待ち致しております。

ご支援御礼

高島易断総本家 様
この度、易断界大御所、高島易断総本家・総裁、高島龍峰先生から「平成十六年高島本暦」(東京高島易断・総本家 蔵版)三百冊のご寄贈を賜りました。早速、十一月度、首都圏・月例講演会、一月度新春の集い」の受講者の皆様に進呈、思わぬプレゼントに一同は笑顔で感謝。高島龍峰先生には心より厚く御礼申し上げます。

祝 瑞宝小綬章受章



瀬戸本 東洋先生

当会の設立発起人のお一方でいらつしやう、藤原会長と一昨年の広島講演を通じて親交の深い瀬戸本東洋先生が瑞宝小授章をご受賞されました。心よりお祝い申し上げます。

瀬戸本先生は永年教職にあり公立高校学校長を退職後は

十五年間、広島県江田島町の教育長を勤められ、平成十五年三月任期を残し関係者に惜しまれつつ後進に道を譲られました。その間、広島県町村教育長を五年間、全国町村教育長会副会長を四年間歴任されました。藤原会長の講演に感動され「今の日本を立て直す為には何よりも教育が要である」と意気投合。広島県町村会・広島県私学協会の会合での講演会の招聘等々本会の活動に多大なご支援、ご尽力を戴いております。

瀬戸本先生の益々のご活躍をご祈念申し上げます。

速報！ 藤原大士会長 第42回杉並文化フォーラムで教育を語る！！



□ 会場全体風景 □ 右側から順に藤原大士会長・山田宏杉並区長・渡部昇一先生



『輝く日本にするために！』

二月十四日、杉並文化フォーラムにて、藤原会長がパネルディスカッション『輝く日本にするために！』に出演されました。

上智大学名誉教授で稀代の論客である渡部昇一先生と「杉並が変われば日本が変わる」をスローガンに斬新な改革を進めておられる山田宏区長と共に、一時間半の熱い語り、会場を埋めた六百余名の大きな拍手が巻き起こりました。

一月十四日の新春の集いに続いて「杉並から新しいうねりを起こそう」の皆様が熱い思いが、大きな輪を生みました。その後、九年連続金賞受賞の杉並高校の吹奏楽、百人からの団員が奏でる超高校級の名演奏に、まさに教育の真髄の実践を見る思いでした。

パネルディスカッションの内容は、次号にてお知らせしたいと思います。

ボランティア スタッフ募集！

蘇れ日本人の会 では、ボランティアスタッフを募集しています。

人のために力を出して、精一杯の人生を生きたいという方ぜひお越しください！

喜びも苦勞も
全て分かち合い
よい日本を
残しましょう！
皆さんの参加を
待っています
(スタッフ一同)

軌道にのるまでは交通費程度の実費のみで参画頂く形になります。明日の日本と世界のために、未来の子供達のためにとご尽力くださる方！まずはご連絡ください。
電話・ファックス・メール、何でも可です。本部事務局までお問い合わせください。

場所 横浜市東戸塚
内容 名簿管理・各種発送講演会準備など
会報編集・ビデオ編集など
なるべくパソコン操作の出来る方

広報

心の苗木運動 のお知らせ

一月十四日の新春の集いにて藤原会長が言われた「心の苗木を植えて育てていきたい」とのお言葉通りに、この会報が皆様の心の苗木として根付くことを願っています。

この「苗木運動」にご協力下さる方、部数をお送りいたしません。必要部数をお送りいたしません。購読も入会も決して無理強いたり押し付けたりしないで下さい。日本人の心が目覚めれば必ず響きます。

また、「心の苗木を広げる為に」として、この活動を「支援下さる方の為に「心の苗木基金」を設けました。会報のより充実した

内容や講演会など心育ての為に使わせて頂きたく存じます。「心の苗木基金」は当会本部郵便振替口座（口座番号 00210-3 口座記号 37370 加入者名 蘇れ日本人の会）にお振込み下さい。通信欄に「心の苗木基金」とお書き下さい。

好評！ 受講前売り券

この度、会員の皆様のご要望により、より多くの会員・受講者の皆様のグループでの参加、知人友人への贈呈など多目的活用の便宜を図ることを考慮して、左記の通りの「講演受講券」（前売券）の発行をはじめました。

会員特典・割引引き
当日券 三千元 一千元
前売り回数券（5枚綴り）
一万二千元 九千元
（贈呈・譲渡・期限一カ年有効）

『蘇れ 日本人の会』 講演会がビデオで見られます！

全国の受講者の皆様のご要望で藤原会長の講演収録ビデオを製作して頒布しております。

収録講演ビデオ

基本シリーズ

- 『今、変革の時』
- 『首相の発言と国のゆくえ』

教育シリーズ

- 『教育は育てることに本意あり』
- 『心の荒廃を防ぐには』
- 『素質と環境が人を伸ばす』
- 『言葉は民族の誇り！』

特別編

- 『蘇生日本への提唱』（1）
- 『輝く日本にするために！』（1）

価格は 1 のものが8,000円（会員は5,000円）、他は全て5,000円（会員は3,500円）です。お求めは以下のいずれかの方法でどうぞ。

- ・本部事務局にご連絡（電話・FAX・メール）を頂く
- ・以下に代金をお振込み頂く
口座番号 00210-3 口座記号 37370
加入者名 蘇れ日本人の会

首都圏・月例講演会のご案内

首都圏・月例講演会

日時：毎月第2土曜日
午後1時30分～3時（開場1時）
会場：東京都内（ホテル 催事会場）
会費：3,000円
（会場の都合により日程変更となる場合がございます）

首都圏・月例講演会は次の要領にて開催されます。受講ご希望の方は、全席自由です。なお早めにご来場下さい。開場は一時です。

講演会の収録ビデオは講演会場でも販売しています。ご希望の方は受付にてお求めください。

アルカディア市ヶ谷（私学会館）

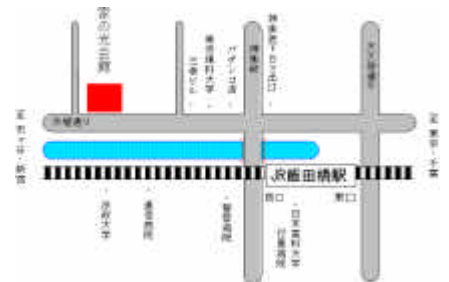
会場のご案内

家の光会館（飯田橋レインボービル）



東京都千代田区九段北 4-2-25
03-3261-9921(代)
営団地下鉄 市ヶ谷駅
A1-1 出口(有楽町線・南北線)
都営地下鉄市ヶ谷駅
A1-1 A4 出口(新宿線)
J R市ヶ谷駅
それぞれ徒歩2分

東京都新宿区市谷船河原町 11
03-3260-4791
J R 総武・中央線
飯田橋駅 西口より
徒歩7分
地下鉄有楽町線・東西線・
南北線 飯田橋駅
神楽坂下 B 3 出口より
徒歩5分



会員募集

入会金は不要です ・ ・ 年会費は何口でも受け付けております ・ ・

年会費 個人会員・法人会員 1口 10,000円

入会申し込み：お電話・FAXでお問い合わせください。入会申込書をお届け致します。

日本人の心を今、呼び覚まそう
蘇れ 日本人の会

〒244-0805 神奈川県横浜市戸塚区川上町574番地
電話 045-824-5965 FAX 045-824-5973
ホームページ <http://www.loseinippon.org>
メール info@loseinippon.org